

# 岐阜県博物館報

ANNUAL REPORT  
OF  
GIFU PREFECTURAL MUSEUM

第 2 号

No. 2

---

## 目 次

はじめに.....	1
第 1 章 昭和53年度の歩み .....	2
第 2 章 管理運営概要 .....	4
1. 組        織 .....	4
2. 予        算 .....	5
3. 入館状況 .....	6
第 3 章 事業概要 .....	7
1. 特別展 .....	7
2. 資料紹介 .....	13
3. 全館燻浄 .....	15
4. 資料収集・調査活動 .....	20
5. 教育普及活動 .....	22

---

1 9 7 9

## はじめに

昨年度は開館3年目でもあり、多くの先達からの御指導と職員の研究努力とがあいまって、ようやく博物館としての活動が定着してきた。

置県100年を記念して建設された博物館であり、展示されている県内の自然・人文の資料は、よく研究し精選されたものばかりで、しかも展示構成が生涯教育の場にふさわしく、明るく、わかりやすく、興味をもって観覧できるよう配慮されている。

常設展で固定化されたコーナーは別として、部分的な展示資料については、随時展示替えをいたしている。なかでも、開館以来3か月ごとに展示替えをしている刀剣は、鎌倉・室町時代を中心に江戸時代までのものばかりで、しかも殆んどが初公開という秘藏品であるから、刀剣愛好家にとっては、随分見ごたえがあり、その評価と期待が大きくとりあげられてきた。

また、特別展では、「濃飛の甲冑」・「世界のコガネムシ」・「能面と装束」を催したが、いずれも最高レベルの展示だと評されるまでになった。「濃飛の甲冑」は、数百年間公開されたことのないような秘蔵の甲冑具足をあれほど多数、多彩に展示されたことは驚異であったようだ。濃飛の各地に封ぜられていた大名と旗本の面影がしのばれ、年代の違いこそあれ一堂に会した機縁に、秘められた胸中を存分に語り合いたいのではないかと思はれる一種異様なふんい気が醸し出され、岐阜県民性の今日ある一端が如実にうかがえるようであった。

「世界のコガネムシ」は、その規模、内容がわが国では初めての展示とも云われ、60か国にわたり、4,000点を越す資料の形態、色彩など多種多様のすばらしさは、まさに大自然の不思議さを思わせた。

「能面と装束」は、わが国でも有数の能面保存県であり、初公開の秘藏品が多く、また、国指定の重要文化財であるすばらしい能装束などと共に、観覧者に大きな感動を与えた。教育普及活動としては、初めての自然観察会と体験学習会を催したところ、多数の参加者があり、同伴の父兄ともども熱心に取り組んだ姿は望外の喜びであった。

管理関係では、開館以来懸案になっていた館内の殺虫、殺菌の問題を本格的に研究し、エキボンによる全館のガス燻浄を実施した。これで貴重な資料の保全に万全の体制をとることができた。

わずか1か年の歩みではあるが、当博物館の活動を世に問う重要な年でもあった。

今後は当博物館の特質を活かしながら、一層皆さんの御期待に添いうる博物館でありたいと願っていたしているので、ますますの御指導と御支援、御協力をお願いする次第である。

昭和54年7月

館長 松尾 克美

# 第 1 章 昭和 53 年度のあゆみ

博物館が真に生涯教育の場として、時代に即応する開かれたものであるためには、館本来の機能である資料の収集・保管、調査研究、教育普及の諸活動がバランスを保って推進されることが重要な条件である。

当館も開館以来、満 3 年を目前にした 4 月 25 日に入館者数 30 万人を突破した。今後は、更に関心の深い人、研究したい人の研修の場として、博物館が活用されることを期待している。

総合博物館としての当館が、基本的計画により新しい博物館としての特質を考えられたためもあり、館蔵品の少ない現状の中から表面にあらわれない苦心と努力を払って、展示の基本計画に基づく内容の充実を図るとともに、資料の計画的収集、専門的、技術的な調査研究に努めた。

また、貴重な資料を最高の条件で保管するために、空調設備を整え、年間一定の温湿度を保つよう最大の配慮を行った。

害虫対策については、従来、年 3 回程度休館日を利用して消毒を実施してきたが、今年度はこの通常消毒のほかに、全館を有害ガスを利用して燻蒸し、有害虫や黴等を全面的に駆除し、完全な状況による資料の保管に努力した。

教育普及活動においては、年間計画一覧、館報等の配布など、情報サービスの強化を図り、併せて関係機関・団体との協力、連けいを密にするとともに、教育的配慮に基づく新規事業として自然観察会、体験学習会を開催して積極的に学校教育・社会教育の学習活動を援助した。

特別展示「濃飛の甲冑」は、秀吉、家康を中心として江戸時代濃飛を支配した諸大名、旗本で郷土に深いかわりがあり、その歴史的由緒の明確な甲冑を公開した。

特別展「世界のコガネムシ」は、甲虫のなかでも、特に、珍しい世界のコガネムシ 4,000 点余を展示した。

夏休みのこともあって、観覧者数 14,466 人という特別展としては初めての盛況を呈した。

特別展「能面と装束」は、能楽資料の三大宝

庫の一つに数えられている岐阜県の各地に保存されてきた県の文化財指定をうけている能面など 60 余点、また、桃山文化を今に伝える国の文化財指定をうけている能装束等 40 点余を一堂に展観した。

なお、寄託されている資料で、「陽徳寺 1 号墳」と、新たに収集した資料で「植物の世界」を資料紹介として展示した。

## 日 誌 抄

### 4・1 人事異動

転出	学芸部長	竹中 照洗
	人文係長	東屋 恵昭
	業務嘱託員	川上ゆかり
転入	学芸部長	吉田藤太夫
	人文係長	宮川 貞郎
	技 師	玉田 吉高

4・21 林雲鳳画伯「斎藤道三」画像を寄贈。

4・23 ドイツ連邦共和国ゾーリンゲン市長一行来館。

4・25 30 万人目入館。記念品贈呈。



(30 万人目の入館者)

鹿兒島県林政部長来館

4・28 特別展「濃飛の甲冑」開幕。

上松知事、横山教育長来館。

5・1 「博物館だより」通巻第 5 号発行。

5・5 開館 2 周年。

5・11 大阪岐阜県人会一行来館。

5・17 東海北陸ブロック「県議会事務局議事調査課長会」一行来館。

- 5・21 「野鳥保護の会」の表彰式を岐阜県博物館講堂で開催。上松知事，福田環境部長来館。
- 5・28 特別展「濃飛の甲冑」閉幕。
- 6・4 岐阜県博物館協会総会（市町村会館）松尾館長，小野木学芸主事出席。
- 6・9 日本博物館協会総会及び全国公私立博物館長会議。松尾館長出席。（東京，国立科学博物館にて，11日まで）。シンガポール共和国，中・高等学校教員10人来館。
- 6・14 東海地区博物館連絡協議会総会（名古屋市）。水間次長出席。
- 6・27 全館燻蒸消毒（7月2日まで休館）
- 7・18 文部省初等中等教育局教育課程企画管理官熱海則夫氏視察。
- 7・19 県議会総務委員視察。
- 7・21 特別展「世界のコガネムシ」開幕。
- 7・23 栃木県土木部長来館。
- 8・1 大分県議会議員16人来館。
- 8・2 中華人民共和国駐日臨時代理大使肖向前氏一行来館。
- 8・4 イタリア共和国駐日大使来館。
- 8・6 自然観察会（昆虫－アリを調べる会）40人参加。
- 8・9 鹿児島県少年団体一行来館。
- 8・10 ドイツ連邦共和国スポーツ交換学生21人来館。
- 8・13 鹿児島県スポーツ交換生徒31人来館。
- 8・20 体験学習（わら細工）実施。34人参加。
- 8・22 東海北陸国立大学経理課長会一行来館
- 8・25 静岡県教育長，沖縄県総務部長来館。
- 8・31 特別展「世界のコガネムシ」閉幕。
- 9・1 「博物館だより」通巻第6号発行。
- 9・5 長野県山岳博物館一行来館。
- 9・14 全国産業教育振興連絡会一行来館。
- 9・15 資料紹介「陽徳寺1号墳」開催。（10月7日まで）。
- 9・25 野村自然係長，文部省教職員海外派遣教育事情視察団員として米国，メキシコ，カナダを訪問（10月10日まで）。
- 10・20 特別展「能面と装束」開幕。鹿児島県民生局長来館。

- 10・26 東海北陸出納事務課長会一行来館。
- 10・31 全米州教育長協議会一行10人来館。
- 11・15 イタリア共和国フィレンツェ市長ガッブジャーニ氏来館。
- 11・17 文部省管理局施設助成課長来館。
- 11・19 特別展「能面と装束」閉幕。
- 11・21 鷲見教育普及係長，日本博物館協会主催，欧州博物館事情視察に渡欧。
- 11・29 都道府県教育長協議会第二部会員31人来館。
- 12・1 水野学芸主事，博物館職員講習に参加。（21日まで）。
- 12・4 東海三県博物館協会交歓研修会（愛知県労働者研修センター）に松尾館長，宮川人文係長，安藤学芸主事出席。
- 12・20 「岐阜県博物館報」第1号発刊。
- 1・1 「博物館だより」通巻第7号発行。
- 1・6 ジャイドル堺日協会副会長来館。全国共済組合事務局長来館。
- 1・21 岐阜県博物館協会セミナー開催。
- 2・25 中華人民共和国杭州市友好使節団周峰団長一行16人来館。



（杭州市友好使節団一行）

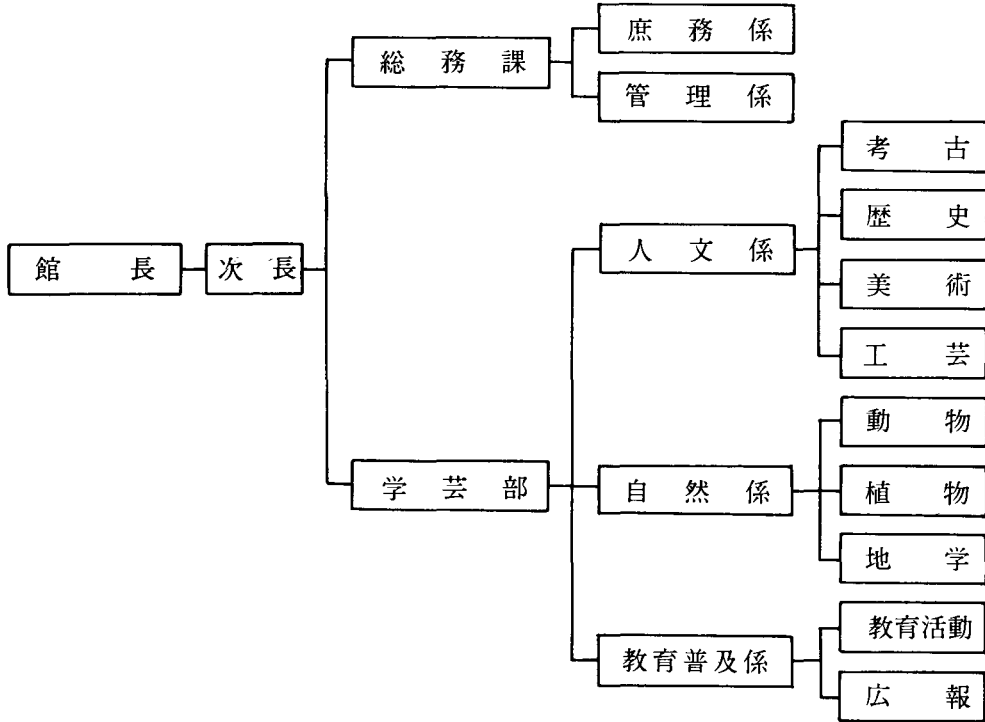
- 3・1 資料紹介「植物の世界」開催（31日まで）。消火訓練実施。
- 3・8 アジア・太平洋統計研修生22人来館。
- 3・27 文部省大島技官来館。
- 3・28 新採用県職員研修実施（県自治研修所主催）。第8回全国科学博物館事業研究会に安藤学芸主事出席（国立科学博物館・電気通信科学館にて，30日まで）。

# 第2章 管理運営概要

## 1. 組織

昭和54年4月1日現在

### (1) 機構



### (2) 職員

職名	氏名	職名	氏名
館長	松尾克美	○学芸部	
次長	杉本美稔	学芸部長	吉宮 太郎
○総務課		学芸部主事	田川 貞隆
主任主査兼庶務係長	西村 義郎	学芸主事	馬場 野一
主事	丹羽 秀之彦	学芸主事	水堀 平光
〃	宮西 友高	自然係主事	野村 明彦
技師	久保 田吉	自然係主事	安藤 芳雄
(兼)管理係主事	玉田 村井	自然係主事	野木 三郎
〃	松井 田	自然係主事	小野 正太郎
業務嘱託員	古田 節由美	教育普及係主事	野木 正太郎
〃	岩井 真晴	教育普及係主事	小野 正太郎
〃	白野 栄佳	教育普及係主事	小野 正太郎
〃	大井 本	教育普及係主事	小野 正太郎
〃	酒山 佳	教育普及係主事	小野 正太郎
〃	加藤 由紀	教育普及係主事	小野 正太郎

(3) 博物館協議会委員（アイウエオ順）

◎印……会長      ○印……副会長

昭和54年5月15日現在

氏名	住 宅	現 職
尾 関 正 爾	羽島郡川島町松倉町1384	羽島郡川島町長
幸 脇 多 聞	岐阜市青柳町4-57	県立岐阜高等学校長
坂 倉 又 吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
高 木 義 明	岐阜市近島447-2	岐阜市立長良中学校長
玉 田 幸 人	岐阜市萱場町中起599-11	岐阜日日新聞社専務、編集局長
○土 屋 齊	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
野 村 忠 夫	名古屋千種区希望ヶ丘4	岐阜大学教育学部教授
◎林 金 雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
平 光 軍 一	岐阜市長森水海道732	岐阜市立長良東小学校長
深 井 重 三 郎	岐阜市鏡島西菖蒲池1621	学校法人佐々木学園理事長

2. 予 算

予 算 の 概 要

(単位千円)

区分	内 訳	年 度			
		昭和46～50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度
入	博物館使用料	—	7,158	12,308	10,936
	雑 入	—	273	265	244
	合 計	—	7,431	12,573	11,180
歳	博 物 館 業 建 設 費				
	建築関係	1,474,317	—	—	—
	展示関係	293,765	96,947	—	—
	その他	71,172	22,575	—	—
	計	1,839,254	119,522	—	—
出	博物館管理運営費				
	開館式典費	—	585	—	—
	運営費	—	19,926	20,401	21,840
	施設管理費	—	51,907	61,544	63,571
	博物館協議会費	—	96	205	209
計	—	72,514	82,150	85,620	
出	博物館事業費				
	常設展示費	—	17,246	10,635	10,628
	特別展示費	—	4,287	5,505	6,000
	資料集取管理費	—	935	1,100	1,200
	教育普及活動費	—	281	800	850
計	—	22,749	18,040	18,678	
合 計		1,839,254	214,785	100,190	104,298

### 3. 入館状況

今年度の入館者総数は103,677人で、年間293日開館し、1日平均入館者は355人。入館予定数と比較すると、それを上廻った。これは小・中学生等団体の入館者が増加したためである。

月別入館状況は、下表のとおりであるが、10月、5月、11月、8月の4か月が圧倒的に多

く、この4か月で全体の約60%を占めている。これは小・中学校の団体入場がこの時期に集中するためである。団体は504団体、44,558人で、全体の約43%を占める。

一日の最高入館者は、5月5日（こどもの日）の2,640人で、5月3日（憲法記念日）の2,209人がこれにつぐ。

昭和53年度

ア、博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数
4月	3,795人	511人	5,255人	9,561人	26日
5月	5,254	1,955	8,418	15,627	27
6月	1,213	427	2,752	4,392	22
7月	2,732	271	3,618	6,621	24
8月	5,422	591	6,626	12,639	27
9月	3,433	1,003	3,873	8,309	24
10月	13,042	2,132	4,328	19,502	25
11月	8,456	667	4,737	13,860	25
12月	285	60	1,215	1,560	22
1月	585	128	1,889	2,602	22
2月	753	75	2,554	3,382	23
3月	2,473	229	2,920	5,622	26
合計	47,443	8,049	48,185	103,677	293

イ、特別展観覧者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
濃飛の甲冑	53.4.28 ~ 53.5.28	2,837人	1,234人	4,613人	8,684人
世界のコガネ虫	53.7.21 ~ 53.8.31	7,296	493	6,677	14,466
能面と装束	53.10.20 ~ 53.11.19	3,041	634	2,370	6,045
合計		13,174	2,361	13,660	29,195

## 第3章 事業概要

### 1. 特別展

#### (1) 濃飛の甲冑

県下には数多くの甲冑が現存するが、本展はこうしたもののうちから、特に郷土の歴史とかわり深い武将所用の甲冑を中心に、その歴史的由緒の明確なものを選んで展示し、その背後に広がる郷土の歴史を、甲冑を通して掘り起こすことを意図した。併せて甲冑の優れた工芸美を、広く県民の観覧に供し、郷土に残されてきた貴重な文化財に対する理解と関心を高め、郷土を再発見する機会となることをめざしたものである。

当県は、古くから地理的・政治的要衝として発展し、特に戦国争乱期においては、天下統一をめざす名将の活躍する舞台でもあり、更に江戸時代に入っては、幕府直轄領・藩領・旗本領が錯綜分立するところとなり、一国一領主支配にはみられない、複雑かつ変化に富んだ歴史を刻んできた。こうした郷土の特質ある歴史を踏まえ、展示は、秀吉・家康の天下二英傑の甲冑をはじめとして、近世期美濃・飛騨を支配した大名、旗本家所用及び伝来のものを中心とした27領の甲冑と、変り兜を含む兜7点、その他陣羽織、陣太鼓、土俵空穂あるいは旗差物等大名・旗本家に伝来する遺品の数々及び、関ヶ原合戦屏風等を含めた52点の資料によって構成したものである。特に美濃各地に分立する諸藩のうち加納、高富両藩を除くすべての大名家所用の甲冑及び遺品が展示できたことは、小藩分立の当県ならではの展示であり、郷土の特色ある歴史を如実に物語り、展示効果をも、一段と高め



(濃飛の甲冑会場風景)

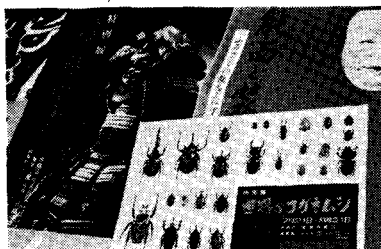
るものであった。

甲冑は、戦闘に際して身体を保護するためにまとう武具であり、かつ身命を賭して戦場に臨む武人の最も雄々しい装束でもある。重厚にして峻巖な美には、まさしく武将の凛々しい生きざまを垣間見る思いがする。鍛造、彫金、漆芸、染織等の磨きぬかれた技術によって産みだされた総合芸術としての工芸美が、8,600余人にのぼる入館者の多くに深い感銘を与えたことは、会場で寄せられたアンケートからも十分うかがうことができた。

さて本展を企画するに当っては、前年度1年間にわたり、資料調査を実施することができた。この間、展示構想にかかわり県内外に所在する資料につき、甲冑研究家吉田幸平氏の指導と協力を受けて、その基礎的資料調査及び記録作成(当記録については、岐阜県博物館報第1号所収)あるいは資料に関する多角的な情報収集等を進めることができた。この調査が、展示の構想を煮詰め、更には展示の質的充実を図る上に極めて大きな意義を持ったことはもちろんであるが、この調査によって得られた成果は、今後の研究の基礎を築くものとして貴重なものであった。

なお、8領もの甲冑が、所蔵者の快い御協力を得て本展終了後も引き続いて寄託していただき、常設展資料の充実に大きな力となった。

本展開催を機会に館と所蔵者が一層その信頼関係を深めた証左であり、その意義は特筆すべきものである。



(特別展ポスター)



## 出 品 一 覧

番号	資 料 名	所 用	時 代	所 蔵 者 ・ 管 理 者	指 定
1	茶糸威最上胴丸	稲葉一鉄所用	室町時代末期	清水神社	県指定
2	斎藤大納言正義画像(写)			片野知二	
3	色々威二枚胴鎧塗具足	加藤光正所用	江戸時代初期	法華寺	市指定
4	紅糸中白威胴丸	伝斎藤道三所用	室町時代末期	南宮神社	県指定
5	色々威二枚胴具足	豊田秀吉所用	安土桃山時代	豊清二公顕彰館	
6	白檀塗具足	徳川家康(松平元康)所用	室町時代末期	久能山東照宮博物館	国重文
7	茶糸威胴丸・兜立木頭	伝大垣藩主戸田氏鉄所用	安土桃山時代		
8	紺糸威肩白胴丸	大垣藩主戸田家所用	江戸時代中期		
9	九曜紋入緋陣羽織	"			
10	大垣藩戸田家大纏	"			
11	白萌黄段威二枚胴具足	伝大垣藩城代家老大高金右衛門所用	江戸時代中期		
12	大垣藩主戸田家九曜紋入鞍				
13	卯花威白檀塗二枚胴具足	金森家伝来	江戸時代中期	金森 穰	
14	紫糸素懸威二枚胴具足	伝金森長近所用	安土桃山時代	"	
15	金森家裏梅鉢紋馬印			"	
16	金森長近所用刀	銘源盛繩作		"	
17	金森重頼画像			東照宮	
18	綾錦包二枚胴具足・兜唐冠	岩村藩主松平乗寿所用	江戸時代初期	岩村町郷土館	町指定
19	紋尽白檀塗総蝶番二枚胴具足	岩村藩主所用	江戸時代中期		
20	萌黄糸威二枚胴具足	旗本岩手竹中家所用	"		
21	縹糸裾濃威胴丸	旗本文殊戸田家所用	"	本巢高等学校	
22	紺糸威胴丸	高須藩主松平義行所用	"	高阪正光	
23	紺糸威胴丸	郡上藩主青山幸宜奉納	江戸時代末期	八幡神社	町指定
24	郡上藩青山家馬印			"	
25	紺糸威二枚胴具足	旗本迫間大鳴家所用	江戸時代中期	大雲寺	市指定
26	浅葱糸威五枚胴具足	伝大鳴雲八光義所用	江戸時代初期	関市	
27	糸緋威二枚胴朱具足	今尾藩主竹腰家所用	"	竹腰正夫	
28	紺糸威背割試具足	"	"	"	
29	紺糸威横刎五枚胴具足	苗木藩主遠山家所用	江戸時代中期	遠山家	
30	丸二引両紋入土俵空穂	"		"	
31	色々威胴丸	旗本多良高木家所用	江戸時代中期	佐藤武男	
32	金小札紺糸威二枚胴具足	"	"	下里勝彦	
33	金小札浅葱糸威胴丸	伝堀秀政所用・堀家伝来	"	住吉神社	
34	卯花威白檀塗二枚胴具足	船附谷家伝来	"	土屋伊作	
35	紺糸威横刎二枚胴具足・兜頭布頭	江戸時代初期			
36	浅葱糸素懸威二枚胴具足	旗本八神毛利家所用	"	岡田廣久	
37	菊一紋入緋陣羽織	"		"	
38	韋包二枚総吹返鞆残欠	集古十種掲載と同じ	室町時代初期	不破幹夫	
39	一之谷兜	竹中半兵衛重治所用	安土桃山時代	竹中敦子	
40	竹中半兵衛重治画像			禪幢寺	町指定
41	烏帽子兜	伝織田秀信所用	安土桃山時代	円徳寺	
42	長烏帽子兜	伝佐藤才次郎所用	"	大矢田神社	
43	冬瓜形蓑朱兜	伝小島時光所用	室町時代末期	高田神社	町指定
44	大黒頭布兜	江戸時代初期		村瀬 武	
45	唐冠兜	旗本岩手竹中家臣寺鳴家所用	"		
46	水牛之兜	石川家伝来	江戸時代中期	永常寺	
47	ちょうちん兜		"	市田 靖	
48	関ヶ原合戦屏風			関ヶ原町郷土館	
49	関ヶ原合戦屏風			藤井昌一	

## (2) 世界のコガネムシ

動物は、地球上に、およそ100万種もいるといわれているが、そのうちコン虫の種類は、およそ80万種を数える。

このことから、コン虫は、いかに地球上で栄えているかがわかる。なかでも、このコン虫の中で、甲虫のなかまが最も種類が多く、しかも変化に富んでおり、世界中でおよそ30万種、日本だけでも8,000種を越す多くの種が知られている。

この特別展では、こうした数多くの甲虫の中でも、特に私たちになじみの深いコガネムシのなかまに絞り、世界の珍しいコガネムシを中心に展示し、その概略を知ることができるよう企画した。

特別展示室の第1室では、甲虫の中でコガネムシのなかまがどんな位置にあるかを示すために、生物系統樹であらわし、しかも、そこに、ナガヒラタムシ、オサムシやカッコウムシのなかまなど実物乾燥標本64点を加えて展示し、全体の導入とした。

展示は、分類を基準にし、コガネムシのなかまを7グループに分け、それぞれの種やなかまの特徴を紹介した。

クワガタムシ・クロツヤムシ・センチコガネ・ダイコクコガネ・コガネムシ・カブトムシ・ハナムグリの7グループがそれである。

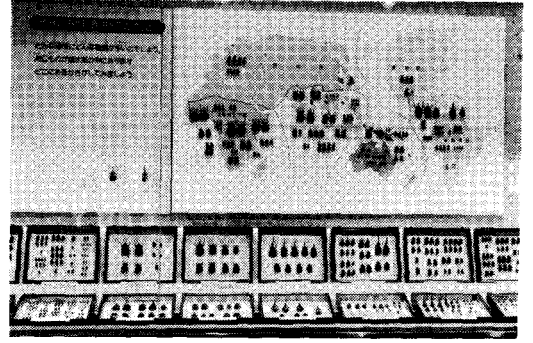
ここで、展示した標本の中で特に代表的なものについて述べることにする。

クワガタムシの原始的なもののなかまに入るアンデス山脈に住むチリーキバナクワガタ、ニューギニア特産のキンイロクワガタ。

日本の北海道から九州の屋久島まで分布している色彩に富んだオオセンチコガネ、ハンガリー産のオオアゴセンチコガネ、フランス産のナカツノチビセンチコガネなど色彩・形とも変化に富んだものの展示。

フェアブルの昆虫記にでてくるタマオシコガネや、インド産で大形のナンバンダイコクコガネ、美しい色をしたペルー産のエメラルドダイコクコガネなど世界的に有名なダイコクコガネの紹介。

おすの前足が長く、10cmもあるセラム島産の



(世界のコガネムシ会場風景)

アンボンテナガコガネ。

カブトムシのコーナーでは、ヘルクスオオカブトムシ、コーカサスオオカブトムシなど大きくて重量感のあるもの、近年まで世界中でも標本が数点しかなく、日本で初公開というボルネオ島産のメーレンカンプオオカブトムシが挙げられる。

ハナムグリのなかまでは、美しい色彩をしているマラウイ産のシロモンツノカナブン、ザイル産のアカモンオオツノハナムグリ、体長10~15cmもあって重量感のあるアフリカ熱帯地方に住むゴライアス、シラフ、オオサマそれぞれのオオツノハナムグリなどである。

なお、壁面には、世界地図の大パネルの上に各地域の代表的な種の実物をとりつけての表示や、クワガタ、カブトムシ、ハナムグリなど、世界の代表的な種の分布図の掲示をして、地域の特徴や種の世界的分布のようすが理解できるようにした。

第2室では、コガネムシの生態や人とのかかわりを中心テーマにして展示した。

地理的変異を、オオセンチコガネやヒラタクワガタの実物標本を採集地別に展示して解説したり、甲虫の採集法や飼い方の図解パネル解説。カブトムシのからだのつくりや発生、成長、生態を液浸標本や生体展示、写真で紹介した。

一方、研究用の参考資料を集めた読書コーナー、博物館のまわりの木の樹液に集まるコン虫たちの生態をあらわしたジオラマ展示、コガネムシを中心とした食物連鎖の図解大パネルも展示した。この特展では、世界60か国、1,025種、4,012点の標本を展示し、会期中に約15,000人の観覧者を数える盛況であった。なお、松山市の永井信二氏、名古屋市の佐藤正孝先生には、資料の提供や展示指導に特に御尽力を賜わった。

## 出 品 一 覧

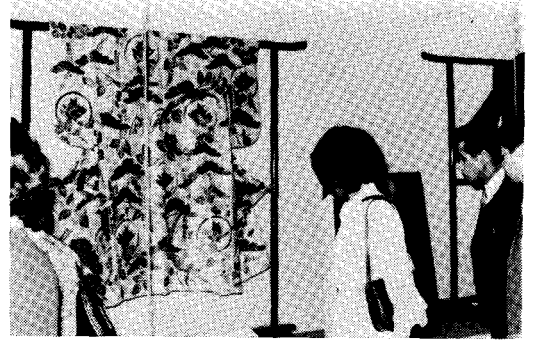
和 名	学 名	産 地
〔ワカタムシのなかま〕		
ババキンイロクワガタ	<i>Lamprima adolfinae</i> (GESTRO)	ニューギニア島
チリーキバナガクワガタ	<i>Chiasognathus granti</i> STEPHENS	チ リ
キンイロクワガタ	<i>Lamprima aurata</i> LATREILLE	オーストラリア
ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus</i> MOTSCHULSKY	日 本
ツナホノアカクワガタ	<i>Cyclommatus albersi asahinai</i> Y. KUROSAWA	台 湾
ミツボシキンイロクワガタ	<i>Metopodontus occipitalis</i> WESTWOOD	フィリピン
	など 151種	511点
〔クロツヤムシのなかま〕		
オニツノクロツヤムシ	<i>Cylindrocaulus patalis</i> LEWIS	日 本
ブコルスオオクロツヤムシ	<i>Proculus goryi</i> MEILLER	グアテマラ
アメリカツノクロツヤムシ	<i>Popilius despunctus</i> ILLIGER	ア メ リ カ
	など 14種	51点
〔センチコガネのなかま〕		
ビレネーツヤセンチコガネ	<i>Geotrupes pyrenaeanus</i> CYANICOLOR	イ タ リ ア
スベスベセンチコガネ	<i>Geotrupes pyrenaeanus</i> CHARP.	フ ラ ン ス
オオアゴセンチコガネ	<i>Lethrus apterus</i>	ハンガリー
ムネアカセンチコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i> WATERHOUSE	日 本
ナカツノチビセンチコガネ	<i>Odontaeus armiger</i> SCOP.	フ ラ ン ス
タマクノチビセンチコガネ	<i>Bolbocerini</i> sp.	アルゼンチン
	など 32種	89点
〔ダイコクコガネのなかま〕		
ナンバンダイコクコガネ	<i>Heliocopris dominus</i>	インド北部
エメラルドダイコクコガネ	<i>Oxysternum conspiciatum</i>	ベ ル
ゴホンダイコクコガネ	<i>Copris acutidens</i> MOTSCHULSKY	日 本
ミツノエンマコガネ	<i>Onthophagus tricornis</i> WIEDEMANU	日 本
	など 68種	213点
〔コガネムシのなかま〕		
タイワンテナガコガネ	<i>Cheirotonus macleayi formosanus</i> OHAUS	台 湾
テナガコガネ	<i>Cheirotonus macleayi macleayi</i> HOPE	インド北部
ホウセキアシナコガネ	<i>Hoplia caerulea</i> DRURY	フ ラ ン ス
ツヤマルアシブトスジコガネ	<i>Anoplognathus porosus</i> DALM.	オーストラリア
クロセマルコガネ	<i>Macraspis tristis</i> LAPOUGE	グアドループ島
	など 40種	127点
〔カフトムシのなかま〕		
アトラスオオカフトムシ	<i>Chalcosoma atlas hesperus</i> ERICHSON	マリンドーク島
メーレンカンブオオカフトムシ	<i>Chalcosoma moellenkampfi</i> KOLBE	ボルネオ島
コーカサスオオカフトムシ	<i>Chalcosoma caucasus caucasus</i> (FABRICIUS)	ジャワ島
シャムゴホンカフトムシ	<i>Eupatorus siamensis</i> CASTELNAU	ベトナム
ヒメカフトムシ	<i>Xylotrupes gideon baumeisteri</i> SCHAUFF.	セレベス島
カフトムシ	<i>Allomyrina dicotomus</i> (LINNÉ)	日 本
サイカフトムシ	<i>Oryctes nasicornis grypus</i> ILLIGER	イ タ リ ア
ゾウカフトムシ	<i>Megasoma elephas elephas</i> (FABRICIUS)	メキシコ
ヘルクレスオオカフトムシ	<i>Dynastes hercules hercules</i> (LINNÉ)	グアドループ島
	など 196種	666点
〔ハナムグリ of the なかま〕		
ゴリアスオオツノハナムグリ	<i>Goliathus goliatus goliatus</i> (LINNÉ)	カメルーン
シラフオオツノハナムグリ	<i>Goliathus goliatus orientalis</i> (MOSER)	ザイール
オオサマオオツノハナムグリ	<i>Goliathus goliatus regius</i> (KLUG)	コートジボアール
アトラスオオツノハナムグリ	<i>Goliathus goliatus regius var. atlas</i> NICKERL	ガ ー ナ
セアカオオツノハナムグリ	<i>Goliathus (Fornasinius) russae</i> (KOLBE)	ザイール
アカモンオオツノハナムグリ	<i>Chelorrhina savagei</i> HARRIS	ザイール
カノコマダラヒヨウモンハナムグリ	<i>Gymnetis pantherina meleagris</i> BURM.	コロンビア
	など 425種	1,897点
〔地理的変異や変った習性をもったコガネムシの紹介などに利用したもの〕		
フチドリアツバコガネ	<i>Phaeochrous emarginatus</i>	ニューギニア島
ツヤケシモグリタイコクコガネ	<i>Phanaeus splendidulus</i>	ブラジル
アマミヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus elegans</i> BOILEAU	奄美大島
タイワンツヤハナムグリ	<i>Protaetia formosana</i>	与那国島
ミヤコハナムグリ	<i>Protaetia miyakona</i>	宮古島
	など 99種	458点

### (3) 能面と装束

近畿に近く、古くより東西文化の交流の地点であった当県には、祖先が長い歴史の歩みの中で、創造し、継承してきた貴重な文化財が、数多く残されている。能についてみると、現在では根尾村能郷の白山神社の祭礼に奉納される猿楽が、古くから伝承されている唯一のものである。しかし、県下の各神社には、数多くの能面や装束が残されていることから、室町時代には、神事的な性格をもって、民衆の中で盛んに演能されていたことがわかる。

本展では、これら数多くの能楽資料を、白山信仰を中心として、越前猿楽・近江猿楽の影響をうけて発展した「美濃山岳地域にひろがる能」と、関刀鍛冶の発展にもなつて関春日神社に伝えられた「大和猿楽の流れをくむ能」とに分けてとらえ、更に能面について、その系譜別比較など体系的なまとめを「面の様式」として展観した。この展示を通して、能の歴史性と併せて仮面彫刻の精神的な美・染織工芸としての清雅で高度な技術を示す能装束の美などが鑑賞できればと意図して展示の構成をした。

「美濃山岳地域にひろがる能」では、白山信仰の美濃馬場である長滝白山神社の能面と装束を中心に能郷白山神社や小津白山神社など郡上・本巣・揖斐郡下に所在する66点の資料を展示した。とりわけ小津白山神社・日坂春日神社の能面や長滝白山神社の延命冠者・応安の年号銘のある尉などは、能面として完成される以前の写実性の強い表情豊かな相貌をもっている。幽玄な雰囲気をもちながら喜怒哀楽の有情の能面とは、きわだった違いがみられ、能面の発達過



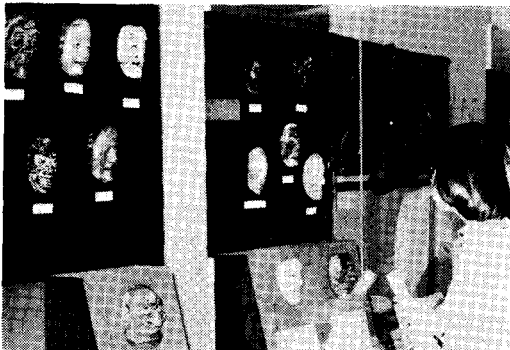
(能面と装束会場風景)

程を知る上でも特に注目されるものであつた。それに黄色地牡丹文繡狩衣(長滝白山神社)や紺地白鷺葦文繡直衣(神所春日神社)などの装束類のあざやかな色糸と華麗な文様は、当時の人々の気風をほおふつとさせるものである。

「大和猿楽の流れをくむ能」では、能装束類29点、能狂言面21点を展示した。金欄、銀欄の狩衣や法被、草花・樹・蝶などを大胆に構成し、清雅な摺箔や縫箔、たくみな意匠を示す素襖や直垂などの装束は、会場を圧巻していた。これらの装束類は、我が国に現存する能装束のうち、最も古い時代に属するもので、その形や文様には、古風典雅な趣がみられ、室町期から桃山期にかけての力強く豪放な時代思潮と嗜好がよく表われていた。また能面では、「永和式年」の銘のある若い女面や「トウ作」の刻銘のある尉面など古様を示す資料とともに、室町末期から江戸初期の幽玄な奥深い美をたたえた面が多く、美濃山岳地域の素朴な印象のものとはちがった能の真髄にふれる資料が展示できた。このように性格を異にする能楽資料が、県内に所在していたことは、展示の内容におのずと深みが出て展示構成の上で幸いした。

「面の様式」では、舞楽面・神楽面など他芸能の仮面を展示することにより、能面についてより理解を深めることができ、また面の制作過程と面の表と裏の展示では、ものを創造する人々、すなわち面打のこまやかな心づかいがしのばれたのではないかと思う。

この特別展により、すぐれた文化財の鑑賞と、また、郷土の先人たちが築きあげてきた文化の偉大さ及び、その意義を感じとることができたのではなかろうか。



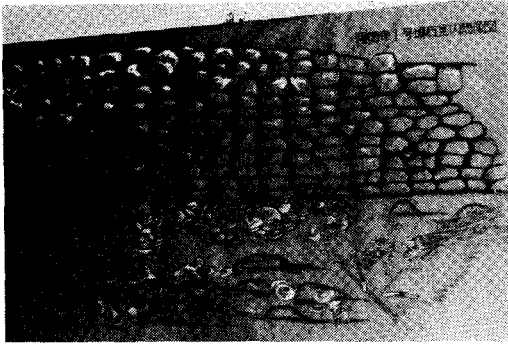
(能面と装束会場風景)

# 出 品 一 覧

番号	資料名	指定	所蔵者・管理者	番号	資料名	指定	所蔵者・管理者	番号	資料名	指定	所蔵者・管理者
1	「美濃山岳地域にひろがる能」		揖斐郡久瀬村小津 白山神社	51	能面 若い男	県重文	白山中居神社	109	能装束唐華文緋子調次	重文	
2	能面 白色尉			52	“ 若い女	“	“	110	“ 桐楓鷲文縫箔	“	
3	“ 黒色尉			53	“ 老年の女	“	“	111	“ 花鳥文銀欄法被	“	
4	“ 父尉							112	“ 菊柄文纏入角帽子	“	
5	“ 尉			54	能面 白色尉	県重文	本巣郡根尾村能郷 白山神社	113	“ 草花色紙散文素襦	“	
6	“ 尉			55	“ 尉	“	“	114	“ 鶴亀松文直垂	“	
7	“ 若い男			56	“ 若い女	“	“	115	“ 色紙松吹鳴鶴文直垂	“	
8	“ 若い女			57	“ 若い女	“	“	116	能面 鬼神（権見）	加茂郡富加町加治田 伊和神社	
9	“ 中年の女			58	“ 怨霊（蛇）	“	“				
10	“ 鬼神（悪尉）			59	狂言面 武悪	“	“				
	“ 鬼神（鉢巻男）		60	能装束白地雲鶴文狩衣	“	“					
11	能面 尉		揖斐郡久瀬村日坂 春日神社	61	“ 細地黒竹菊唐文緋子小袖	“					
12	“ 鬼神（悪尉）			62	三番叟 鈴	“		117	「III 面の様式」 舞楽面 納管利	郡上郡白鳥町二日町 八幡神社	
13	“ 鬼神（悪尉）			63	大鼓	“					
14	“ 鬼神（飛出）			64	小鼓	“		118	追難面 子鬼	揖斐郡久瀬村小津 白山神社	
15	“ 鬼神（般若）			65	能管	“					
16	“ 怨霊（怪土）			66	扇	“					
17	“ 若い女							119	神楽面 鬼神	県重文 益田郡萩原町上呂 久津八幡宮	
18	“ 若い女			67	「II 大和縁来の流れをくむ能」 能面 尉	県重文	関市南春日町 春日神社	120	神楽面 蛇	加茂郡七宗町神洲 春日神社	
19	“ 老年の女			68	“ 鬼神（権見）	“	“	121	神楽面 鬼神	“	
20	狂言面 空吹			69	“ 怨霊（雲の男）	“	“	122	神楽面 尉	県重文 吉城郡国府町宮地 荒城神社	
			70	“ 怨霊（雲女）	“	“	123	神楽面 鬼神	“		
21	能面 鬼神（悪尉）		揖斐郡徳山村開田 六社神社	71	“ 若い女	“		124	占面 若い男		揖斐郡徳山村徳山 白山神社
22	能面 若い男			72	“ 中年の男	“		125	占面 若い女		“
23	大鼓調			73	“ 若い男	“					
24	能面 黒色尉			74	“ 鬼神（権見悪尉）	“					
25	“ 父尉			75	“ 怨霊（蛇）	“					
26	“ 尉			76	能装束花鳥文銀欄狩衣	重文					
27	“ 鬼神（権見）			77	“ 散花文黄緋狩衣	“					
28	“ 鬼神（権見）			78	“ 桐桜沢渦文摺箔	“					
29	“ 若い男			79	“ 雲龍文黄緋法被	“					
30	能装束紺地白鷺華文纏直衣			80	能面 白色尉	県重文		126	（能面の系譜） 翁系 白色尉	県重文	能郷 白山神社
31	“ 草花文銀欄狩衣		81	“ 黒色尉	“		127	父尉	日坂 春日神社		
32	“ 社若文角帽子		82	“ 尉	“		128	黒色尉	“		
33	能面 父尉		83	“ 怨霊（雲の男）	“		129	延命冠者	小津 白山神社		
34	“ 黒色尉		84	能装束花鳥文銀欄調次	重文		130	尉系 小尉	県重文 関 春日神社		
35	“ 鬼神		85	“ 松藤揚羽蝶文縫箔	“		131	石玉尉	“	能郷 白山神社	
36	小鼓調		86	“ 雪持柳揚羽蝶文縫箔	“		132	鬼神系飛出	“	関 春日神社	
			87	能面 若い女	県重文		133	権見	小津 白山神社		
			88	能装束菊桐山吹文縫箔	重文		134	権見	県重文 関 春日神社		
			89	“ 連唐草文緋子調次	“		135	獅子口	“		
			90	“ 雪持柳松皮菱文縫箔	“		136	重荷悪尉	“		
37	能面鬼神（権見）		郡上郡八幡町小野 八幡神社	91	能面 若い女	県重文		137	悪尉	日坂 春日神社	
38	“ 若い女			92	“ 若い男（鳴食）	“		138	怨霊系神体	県重文 関 春日神社	
39	狂言面 御寮			93	能装束花唐草文銀欄法被	重文		139	筋任上	“	
40	能面 白色尉	県重文		94	“ 桐社若文纏入角帽子	“		140	怨霊	日坂 春日神社	
41	“ 延命冠者	“		95	“ 蜻蛉文素襦	“		141	般若	県重文 関 春日神社	
42	“ 尉	“		96	“ 宝雲文素襦	“		142	男系 鳴食	“	
43	“ 尉	“		97	“ 松皮菱松吹鳴鶴文直垂	“		143	童子	“	能郷 白山神社
44	“ 鬼神（飛出）	“		98	“ 松吹鳴鶴文直垂	“		144	若い男	“	
45	“ 鬼神（悪尉）	“		99	“ 松吹鳴鶴文直垂	“		145	女系 若い女	“	関 春日神社
46	能装束黄色地牡丹文纏狩衣	“		100	“ 踏形菊松吹鳴鶴文直垂	“		146	中年の女	小津 白山神社	
47	能面 鬼神（悪尉）	県重文	美濃市須原 洲原神社	101	狂言面乙	県重文					
48	“ 鬼神（権見）	“		102	“ 祖父	“					
49	“ 鬼神（権見）	“		103	“ 伯藏主	“		147	（面の表と裏） 能面 怨霊	日坂 春日神社	
				104	“ 賢徳	“		148	“ 若い女	県重文 関 春日神社	
				105	能装束花鳥文銀欄狩衣	重文					
				106	“ 雲文緋子狩衣	“					
				107	“ 草花鳳凰文縫箔	“		149	（面のできるまで） 女面製作工程	大版市住吉区帝塚山 山中	
				108	“ 花鳥文金欄調次	“		150	彫刻の用具	石倉耕春	
				108	“ 桐松鶴文縫箔	“		151	彩色の用具と材料		

## 2. 資料紹介

### (1) 陽徳寺1号墳



(陽徳寺1号墳石室内想像図)

陽徳寺1号墳は、関市千疋の長良川右岸にある陽徳寺裏山丘陵地に確認されている19基の古墳の一つで、昭和13年、陽徳寺西浦住職の手によって発掘が行われた。出土した豊富な須恵器は、のちに「陽徳寺期」といい、6世紀初頭の須恵器編年の上で周知されるにいたっている。

また、昭和50年7月から、1号墳の北西丘陵が宅地造成のため開発されることとなり、断崖の端にかかる1号墳を含む数基の古墳の保存処置が非常に困難であるとの判断から取りこわすこととなり、緊急にこれらの古墳を発掘調査して、記録をのこす作業が行われた。

これによって、従来円墳とされていた1号墳は、「帆立貝式」古墳であることが判明し、古代牟婁津クニの首長とのかかわりの研究の資となった。紹介した資料は、須恵器125点(坏37点・坏蓋37点・有蓋高坏12点・同蓋12点・無蓋高坏5点・罌4点・提瓶4点・壺4点・直口壺2点・脚付碗短頸壺・台付壺・平瓶・甕・角坏・子持須恵器・土師器片各1点)、玉類57点(勾玉10点・管玉23点・丸玉24点)、直刀・刀子各1点、鉄鏃8点・馬具4点・珠文鏡1点の計198点である。

この資料に、古墳の歴史的背景、形態、機能、副葬品と陽徳寺期の特色などそれぞれの解説を、文と作図、イラストによって表現し、埋蔵文化財が、現代の私たちが生きていく中で、いかに大切なものであり、保存されなければならないかを訴えたものである。

1号墳内出土須恵器の中で、特に注目される

のは子持須恵器である。大まかに眺めると、坏部上縁に5個、中央に1個の子をもっている。5個は同型の蓋付で、縁部の一個は有蓋高坏を逆に取り付けてある。蓋は2個を除いて全部焔着している。

坏部とともに焔着し、重ね焼きがしてあるので、これは実用の器でなく、祭儀に用いる装飾土器であったと考えられている。

脚には、三段の筋をつけ、各3個ずつの台形透孔をもつ、胴部にはタタキ目とそれぞれ変化をもたせた流水文帯を4本つけて引き締めている。

この巧みな陶芸技術は、窯とともに百濟、新羅の影響を考えることができ、角坏とともに、すぐれた様を如実に示している。

従来、陽徳寺期と呼ばれていた須恵器は、1号墳の須恵器すべてについて考えられていたが、昭和50年の再発掘の調査報告においては、坏身の器高と立ちあがり高に連続して観察できる変化を追跡し、1号墳は6世紀初頭から7世紀中ごろにかけてたびたび追葬がなされていることを考察している。

陽徳寺1号墳は消滅したが、2回の発掘とこれにあたった各考古関係の学識者の研究によって内容は明らかにされた。

今回の資料紹介にあたり参考とした書の著者をあげれば、故林魁一氏(郷土史家)、檜崎彰一氏(名古屋大学教授)、大江傘氏、吉田英敏氏、藪下浩氏(各岐阜県考古学会員)各位である。

なお、今回の資料紹介「陽徳寺1号墳」の公開にあたっては、陽徳寺及び同総代中村克己氏、関市教育委員会の多大な協力を得た。



(陽徳寺1号墳出土品)

(2) 植物の世界



(植物の世界会場風景)

自然の価値を見直すことの大切さが叫ばれる今日、私たち人間は、身近な植物の世界に対して、あまりにも無関心・無知になりすぎてはいないであろうか。本館が収蔵している腊葉標本を紹介する中で、身のまわりの植物への関心と興味の高まりをねらいとし、植物といえども、実に変化に富んでいること、つまり生物の多様性への素朴な驚きを呼び起こし、基礎的な知識の普及を図ろうとした。

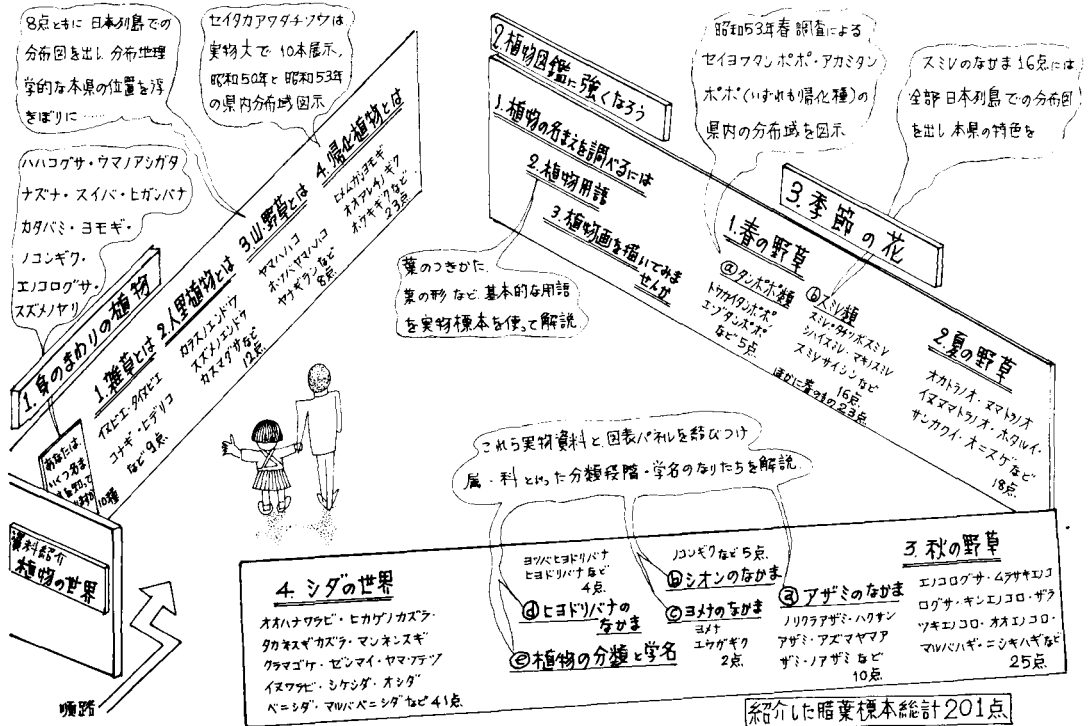
そのために、この資料紹介で留意したことは  
①腊葉標本の分類学的な陳列といった、資料の

単なる紹介に終わらないで、展示に流れをもたせる。

- ②随所に、和名の由来を図を用いて解説する。
- ③よく似たなかまの植物を並べて展示し、見る側の人々が、それぞれ自分なりに比較し、その差異を見つけるようにする。
- ④見る視点となるような部分の拡大図を添える。
- ⑤随所に日本列島全体での、その種の分布域を図示し、分布地理学的事実を提示することによって、岐阜県の植物地理学面での特異性を浮きぼりにする。
- ⑥入場者に「セイヨウタンポポをみつけよう！」

(帰化種と在来種の見分け方の図解・生育環境の違いの解説など)「科学の自由研究とおし葉標本について」(研究とは、植物を素材とした研究テーマ例、自由研究でのおし葉標本の意義、おし葉標本をうまく作るには、博物館の活用)の二つの印刷物資料を配布し、身近な植物観察への意欲づけをする。

以上のようなことから、展示構成及び展示内容の概略は、下図のようにした。



### 3. 博物館・収蔵資料のガス燻蒸消毒

(6月26日～7月3日)

#### 1. はじめに

博物館が収集・保存の対象としている文化財は、例えば金属の酸化のような化学的劣化及びカビや昆虫の喰害のような生物的劣化に対する慎重な配慮が常に要求される。

そうした資料の劣化にいたる危険を防除し、少しでも長く文化財の原状を維持させることは、博物館に課せられた大きな使命である。

今回実施したガス燻蒸消毒は、その趣旨により資料の生物的劣化を防除すべく最も効果ある手段として取り上げられたものである。

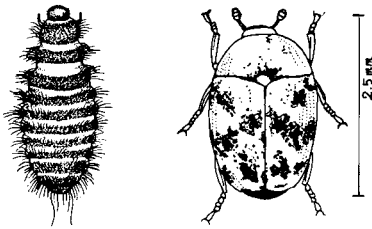
#### 2. 博物館資料を喰害する害虫

##### (1) 昆虫類を主体とする小動物

###### ○カツオブシムシ科

博物館の代表的害虫のひとつで、幼虫が毛織物・剝製・乾燥動植物標本・書籍類を喰害する。

当館では、資料に直接被害が確認されるには至っていないが、外部から持ち込まれたと思われる、ヒメマルカツオブシムシの成虫が採集された。



(幼虫)

(成虫)

(乾燥動植物標本の天敵ヒメマルカツオブシムシ)

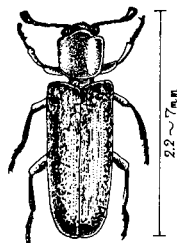
###### ○ヒラタキクイムシ

我が国ではラワン輸入とともに問題になっている害虫で、一般に広葉樹のでんぷん含量の多い辺材部に産卵し、孵化した幼虫がその材を害する。

当館でも陳列ケースなどに若干の被害が確認されたが、ケース・書架などともに入りこんだものと推測される。

###### ○キクイムシ科

どれも幼虫が木材に含まれるでんぷんを食べるもので、木彫仏像など木



(ラワンなど木製品の害虫ヒラタキクイムシ)

製資料の大敵である。

###### ○シバンムシ科

シバンムシ科の昆虫の形態は一般に小型で、半円筒状を呈し、いずれも幼虫が各種の枯乾材を喰い、木彫仏像・屏風・民具・和紙を使った古書及びその他古い木製資料に被害を及ぼす。

###### ○イガ科

衣類の害虫で知られるイガは、幼虫が資料のうちでも主に毛織物・毛皮・動物標本に大きな被害を与える。

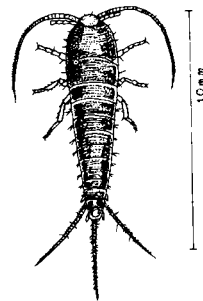
###### ○ゴキブリ科

ゴキブリの家庭での横暴ぶりは知られるところであるが、資料、特に書籍類に対する害は、糊づけした表紙の部分が喰われ、洋書のクロス、和書の表紙が剥けて部分的になくなってしまうことすらある。

また、その糞による汚損もひどい。

###### ○シミ科

シミは、本の大敵として知られているが、糊づけした紙類を好み、絹・人絹・スフ類を害する。



(書籍類の害虫・シミ)

その他、木材を喰い荒すシロアリ、枯死木寄生性のカミキリムシ及びタマムシ、書籍・乾燥植物標本の害虫であるホンジラミ、喰害はしないが営巣するため資料汚損を来たすアリ類、ハチ類及び野ネズミがある。

##### (2) 糸状菌類(カビなど)

博物館の資料劣化を来たすもうひとつの大きな敵は、カビなど糸状菌類だと言われ、次のような被害が報告されている。

- ① 書籍などに使用されている糊を変質させ、汚点を作ることがある。
- ② 刀剣の錆の一原因はカビから産まれる有機物であるといわれる。
- ③ 腐朽菌が木製品を侵蝕することはよく知られている。

このようにカビが保存資料にとって大敵であることは、例えば燻蒸薬剤の選定に当たって考慮しなければならないことだと思われる。

#### 3. ガス燻蒸消毒の実施

当館においても、ビル管理法に定める消毒をDDVP剤によって実施しているが、これは資



料を害する昆虫類・カビ類の防除には有効な薬剤とは言えない。

当館では、まだ現実に資料の被害が確認されているわけではないが、開館して3年を経て、職員や入館者、あるいは搬入資料や備品類を媒介として、害虫やカビが持ち込まれる危険性は当然予想されていたし、現実に若干の害虫の成虫（ヒメマルカツオブシムシ、ヒラタキクイムシ、チャバネゴキブリなど）が採集された。

博物館のガス燻蒸実施に当たっては、まず実効の確保と安全性の確保が第一に配慮されねばならないが具体的には次のように進めた。

#### (イ) 薬剤の選定と基準投薬量

- ① 資料の奥深くひそむ卵・幼虫・蛹を含む昆虫類及びカビ類の防除が目的であること。
- ② 博物館は様々な種類の素材による資料を収蔵するため、資料に悪影響のない薬剤で消毒する必要があること。

以上の観点から、メチルプロマイド(殺虫剤)と酸化エチレン(殺菌剤)の混合剤(商品名「エキボン」)を使用し、一定予算の範囲内でより効果をあげるため、別図6～8のように各部屋に基準投薬量に差を設ける方法をとった。(結果は図9のとおり)

各部屋ごとに燻蒸の対象を明確にしたのである。

そのため、収蔵されている重要な資料は、カビ類の防除をも対象とした第6収蔵庫と特別収蔵庫へ移動した。

#### (ロ) 燻蒸時期と期間

##### ① 燻蒸時期

燻蒸時期として、6月26日(月)～7月3日(月)を設定したが、その理由は次のとおりである。

② 薬効と温度の関係は下図2のとおりで、温

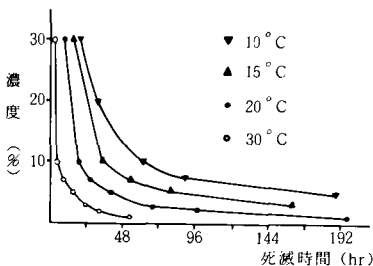


図2：温度と殺菌効果の関係

度が高い時期の方が効果があると報告されている。

③ 生物学的に言えば、害虫やカビの活発な時期の方がより効果がある。

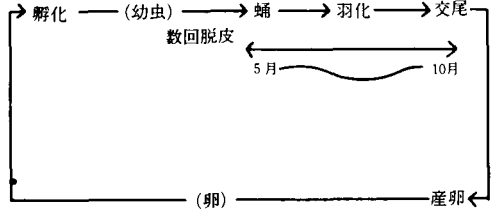


図3：ヒラタキクイムシのライフサイクル

④ 博物館としては、危険防止という意味からも、入館者の少ない時期が望ましい。(図4参照)

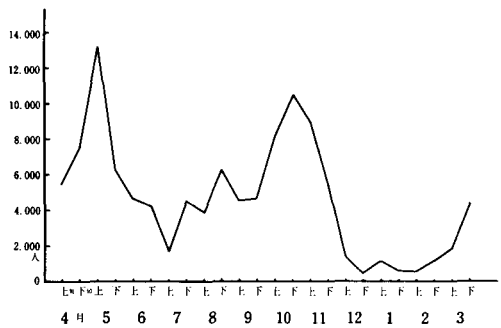


図4：昭和52年度時期別入館者数

⑤ 特別展など他の行事によって障害がない時期でなければならない。

##### ② 燻蒸期間

燻蒸期間は、今回のように広範囲にわたる場合は、最低8日間が必要と思われる。

具体的な作業日程は別図5のとおりであった。もちろんこのほかに職員による資料移動作業がある。



図5：燻蒸作業日程表

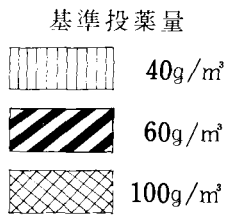
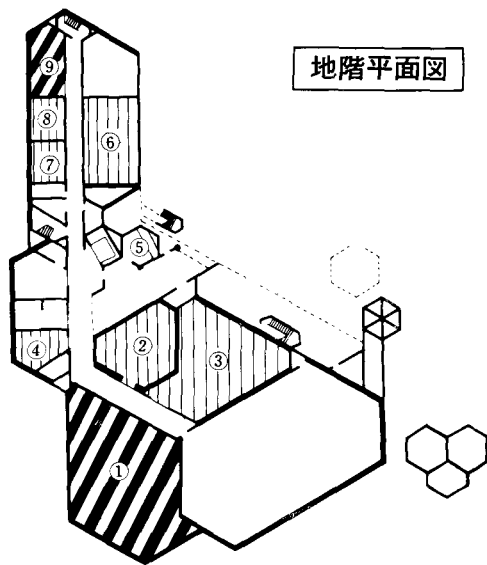


図6：B F部屋別基準投薬量

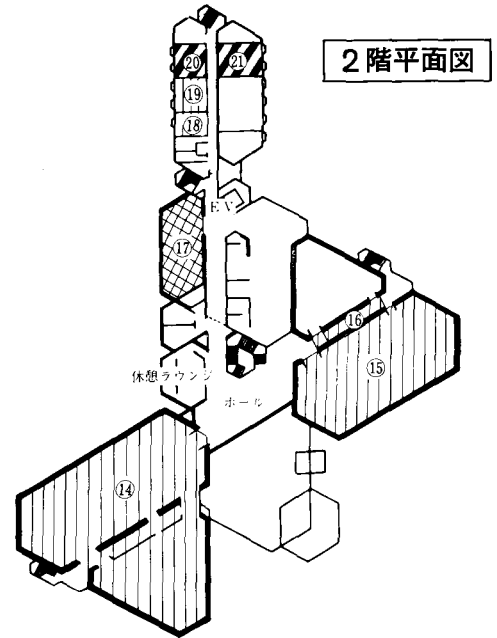


図8：2 F部室別基準投薬量

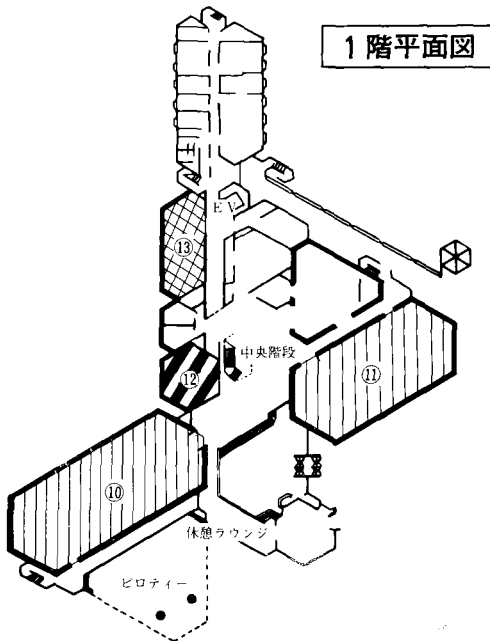


図7：1 F部室別基準投薬量

	室名	容積 (m <sup>3</sup> )	1 m <sup>2</sup> 当りの投薬量 (g/m <sup>2</sup> )	供試虫死滅率	カビ死滅率
1	第1 収蔵庫	1413.5	60	100%	
2	第2 収蔵庫	567.0	40	〃	
3	第3 収蔵庫	864.0	40	〃	
4	展示準備室	102.0	40	〃	
5	倉庫 (仮収蔵庫)	113.4	60	〃	
6	第4 収蔵庫	467.8	40	〃	
7	石工室	157.0	40	〃	
8	工作室	165.0	40	〃	
9	第5 収蔵庫	258.5	60	〃	
10	自然展示室Ⅰ	3213.0	40	〃	
11	自然展示室Ⅱ	2394.0	40	〃	
12	郷土学習室	477.0	60	〃	
13	第6 収蔵庫	714.0	100	〃	100%
14	人文展示室Ⅰ	4924.5	40	〃	
15	人文展示室Ⅱ	2394.0	40	〃	
16	展示準備室	132.5	40	〃	
17	特別収蔵庫	764.0	100	〃	100%
18	第一研究室	96.9	40	〃	
19	第二研究室	145.9	40	〃	
20	第三研究室	145.9	60	〃	
21	人文研究室	191.5	60	〃	

図9：各部室の容積及び燻蒸結果

### ③ 臨時休館日の広報

作業実施期間のうち、前後2日間の通常休館日のほかに、6日間の臨時休館とし、岐阜県博物館管理規則第3条第3項に基づく掲示のほかに実質的な広報として次のことを行った。

- ㊶一般新聞掲載
- ㊷県広報誌（くらしと県政等）掲載
- ㊸「博物館ニュース」掲載
- ㊹「博物館だより」掲載
- ㊺実施前4週間にわたる館内放送
- ㊻周辺小中学校に対するチラシの配布

ただ、これで万全であるかどうかは今後検討の余地がある。

### ㊼ガス漏れ防止と危険防止対策

① ガス漏れを防止するには、各部屋の完全な目張りが第1であり、今回も作業の大半が目張り作業のために費やされた。

そして、目張りを効率よく行うために、数回にわたる事前打合せ、館構造の設計図による検討、設備保守業者、特に空調設備保守業者との打合せを念入りに行った。

また、投薬後、定期的な各部屋の上段、中段、下段においてガス濃度チェックを行った。

例えば、収蔵庫（例：第6収蔵庫）と展示室（例：自然展示室Ⅰ）のガス濃度の推移は別表のとおりであり、これには多分に部屋の構造が関係していると思われる。

今回、初期の目的は十分達せられたが、より効率よく行うために次回からの参考にされるべきであろう。

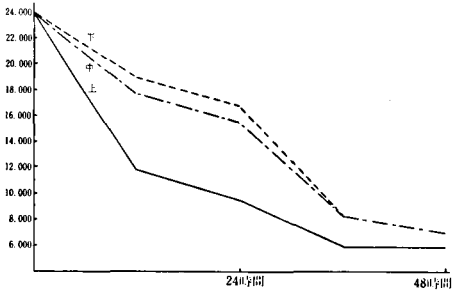


図10: 第6収蔵庫のガス濃度の推移

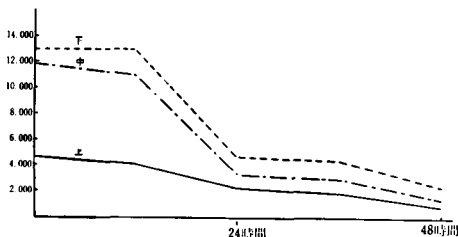


図11: 自然展示室Ⅰのガス濃度の推移

② ガス漏れによる第三者への危険防止のために次のような対策を構じた。

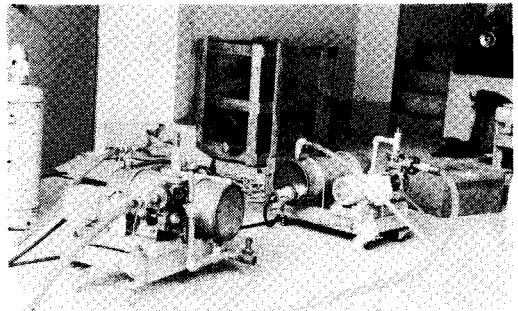
- ㊶燻蒸期間中、公園の南北入口及び博物館の正面登り口に立看板を立てた。
- ㊷燻蒸期間中、館の周囲に縄張りをし、5 m おきに立入禁止の表示をした。
- ㊸投薬後、業者技術者による24時間常駐を義務づけた。
- ㊹警備員による24時間監視をした。
- ㊺昼間、職員による巡回監視をした。
- ㊻常時、業者に炎色判応による館周囲のガス漏れチェックを義務づけた。

その他、公園関係者の積極的な協力があったことはもちろんである。

### ㊼汚損防止

前述のように、博物館資料や床面及び壁面に対する汚損防止については、薬剤の選定を始めとして、強い関心をもたざるを得なかった。そのため、次の汚損防止対策を行った。

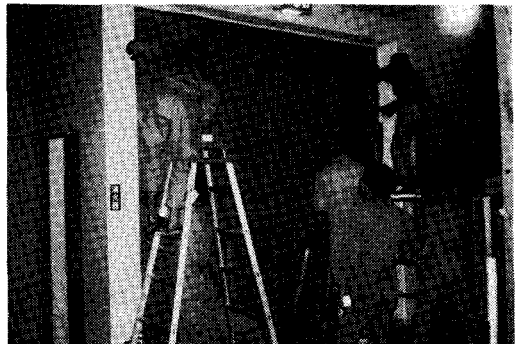
① 薬剤が液体のまま放出されることによる壁面及び資料への汚損を防ぐため、防爆装置付きの気化機の使用を義務づけた。



(防爆装置付き気化機を使っての注入)

② 目張り作業中の資料への危害防止のために資料担当者による立会いを行った。

③ 壁面への痕跡付着を避けるため、目張りには水溶性糊の使用を義務づけた。



(収蔵庫の目張り作業)

④当館は通常、温度22℃、湿度60%に保たれているが、燻蒸中の空調停止による温湿度の変化は当然予想され、資料への悪影響が心配された。

そのため刀剣については特別に包装したが、その他資料については、そのままの状態ですべて影響は確認されなかった。

温湿度の変化が心配したほど大きくなかったためであるが、刀剣については、指導をお願いしている伊佐地先生の親身なアドバイスがあったためでもある。

#### (b) 非常事故対策

事前に消防署・関警察署・中濃病院に連絡をとり、非常事故にそなえた。

しかし、当館の立地条件もあって、これらがなんの支障もなく終わったことは幸いであった。

#### (c) 効果確認

今回の燻蒸消毒において、実質的效果をあげることが最大の目的であった。

そのため効果の確認を厳密に行っておかねばならないがそれをどのような方法で行うかについては、今後なお検討されなければならない。今回は、次の方法で行った。

①対象各部屋の上段（天井から30cm）、中段（床上120cm）、下段（床上60cm）に測定点を設けて、定期的にガス濃度チェックを行った。

②害虫については、各部屋数箇所に、場所を指定し、供試虫を配し、ガス解放後それらの死滅状態を点検確認した。



(ガス濃度測定)

なお、供試虫は、(社)シロアリ対策協会が定める基準でセットし、中にメチルブロマイドが一番強いコクヌストモドキとその被害米を入れた。

被害米を入れるのは、卵の死滅状態を確認するためである。

③カビについては、壁面に付着した菌を燻蒸の前後で測定し、また、培養菌を配置してその死滅状況を調査した。

結果は、前掲図9のとおりであった。

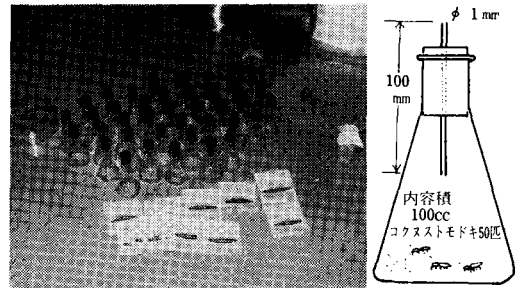


図12：コクヌストモドキの入ったフラスコ  
写真：人工培養したカビと供試虫

#### (b) 安全確認

ガス解放後、各担当者が立会い炎色判応で、ガスが完全に抜けているかどうかを確認した。

メチルブロマイドは空気と比べて重いため、低く窪んだところ、穴の中のような排気が難しいところに特に注意すべきである。

今回も、地下室の機械室のマンホールの中にガスが残り、後で強制排気を行った。

#### 4. 今後の問題

今回の全館ガス燻蒸消毒は、初回ということもあって若干のとまどいはあったが、十分な成果をあげたと思われる。

ただ、当館においては、非常に複雑な構造をもっている展示室のガス漏れ防止について、なおその方法を検討していく必要があるだろう。

文化財資料をいかに長く保存していくか、それは博物館がまず考えなければならないことであるが、実際では、文化財劣化の大部分が害虫や野ネズミやカビによる、いわゆる生物的劣化であるので、これらの防除がその中心となる。

当館では、お借りした資料、寄託を受けた、資料、寄贈願った資料など全ての資料について、その搬入時に燻蒸器を使ってガス消毒をしているが、それでもなお、定期的に館自体のガス燻蒸消毒は必要であると報告されている。

資料収集と並行して、資料を生物的劣化からいかに守るか、今後、資料担当者による本格的な取り組みが必要であろう。

### 3. 資料収集調査活動

#### (1) 自然部門

	館				借用	寄託	計
	実物	複製	その他	(寄贈分)			
動物	7,644	41	128	(6,087)	17	109	7,939
植物	1,654	25	167	(1,437)	0	0	1,846
岩石・鉱物	866	5	62	(148)	20	3	956
化石	1,257	29	17	(734)	51	13	1,367
その他	46	22	130	(4)	0	0	198
計	11,467	122	504	(8,410)	88	125	12,306

複製には模型・ジオラマを含む

昭和54年3月31日現在

#### ◎ 寄贈者芳名一覧 (敬称略順不同)

資料名	点数	芳名
アユ成魚及び稚魚	91	県水産試験場
イノシシ頭骨標本	1	和田 益己
ツキノワグマ頭骨標本	1	長屋 秀雄
コガタズメバチの巣	1	小椋 敏一
キツネのハク製標本	1	河合 敏郎
海産貝類	262	後藤 常明
コタマガイ	8	小出 五郎
カワニナ的一种	2	宮崎 惇
平岩産ホタル石など	455	金指 実
福地産海綿化石など	4	長屋 政秋
赤坂産ソレノモルファなど	35	小野 輝雄
可児産植物化石など	5	福岡 時男

#### ◎ 化石資料の調査収集事業

上宝村福地地域のデボン紀～ペルム紀化石について東京大学浜田隆士助教授の現地指導で行い、三葉虫、各種サンゴなど130点の資料を収集した。

#### ◎ 常設展示資料の購入

- ・複製品の製作

郡上郡八幡町熊石洞産のヘラジカの下あご及び可児町帷子産のカニサイの下あごの2点

- ・岩石標本の採集及び加工

山岡町産の領家帯ホルンフェルス及び神岡町産の黒雲母花崗岩の2点

#### ◎ 常設展示構成充実準備調査

・清見村地域の濃飛流紋岩の層序と構造について継続調査を行った。

・飛騨外縁帯の諸問題について、荘川黒谷地域の変成岩を巡検調査した。

・根尾谷断層模型の基礎的問題について、神戸大学杉村新教授の指導を受けた。

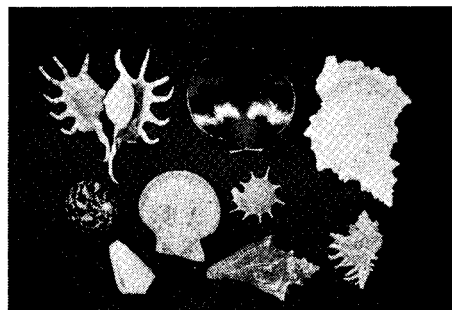
・白山北縦走路の植生調査(鶴平新道～野谷荘司山～モウセン平)

・岐阜県内産アザミ属の資料収集(ノリクラアザミ・ハクサンアザミ・スズカアザミ・アズマヤマアザミ・ナンブアザミ・イブキアザミ他)とその分布調査。

・岐阜県内産タンポポ属の資料収集(トウカイタンポポ・セイタカタタンポポ・カンサイタンポポ・セイヨウタンポポ他)とその分布、帰化種の侵入状況調査。

・岐阜県内各地の植生景観及び生態写真撮影による写真資料収集(ハイマツ低木林、垂高山帯針葉樹林、日本海側ブナ林、山地草原、シラカンバ自然林、シデコブシ自生地、その他)

・長良川上流域(中村谷、神仲谷、節谷、猪洞谷、鷲見川、八百倍谷、正ヶ洞谷、切立川、古屋谷、大洞谷、小洞谷など)の水棲昆虫相及びアリの収集調査を行なった。



(後藤常明氏寄贈海産貝類の一部)

## (2) 人文部門

	館		蔵		借用 寄託		計
	実物	複製	その他	(寄贈分)			
考古	462	49	40	(440)	317	337	1,205
歴史	473	12	76	(473)	75	8	644
民俗	1,070	2	75	(1,070)	44	0	1,191
美術・工芸	59	22	33	(59)	129	459	702
その他	0	5	11	(2)	0	0	16
計	2,064	90	235	2,044	565	804	3,758

複製には模型・ジオラマを含む

(昭和54年3月31日現在)

### ◎ 寄贈者芳名覧

(敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名
厨子甕・石厨子ほか	4	国井増太郎
縄文式土器・須恵器・土人形、糸車ほか	323	成木 一彦
陶 棺	1	富田 博史
文政一分金	7	藤谷 音市
絹本着色斎藤道三画像 (林雲鳳筆)	1	林 雲鳳
日本画加藤東一作「柿」ほか	2	藤村 欣二
日本画加藤栄三作 「干柿のある風景」	1	所 やなぎ
複製埴輪馬、駅鈴、香炉型土器	3	内田 輝夫
提灯型板一式(8枚)	1	畔柳 民三
藍玉ほか	3	村瀬 幸吉
箱段・タンス	2	古田 和夫
足半・草履	2	池村 兼武
弁当びく、ねずみ捕りほか	8	池村 貞一
草履編み台	1	宮川頼太郎
唐箕・石臼	2	野倉 喬蔵
米 櫃	1	大岩 峰子
碗籠・蒸籠・糸車ほか	19	千田 重彦
すき・藪	2	塚原 隆

### ◎ 複製資料の製作

- 佐波里蓋碗形合子(各務原市山田寺所蔵) 1点  
 畑畑遺跡出土台付甕棺(各務原市教育委員会所蔵) 1組  
 深鉢型縄文土器  
 (各務原市教育委員会所蔵) 1点  
 門端遺跡出土台付鉢型土器  
 (清見村教育委員会所蔵) 1点

木造大日如来像(武儀町 日竜峰寺所蔵) 1点  
 姉小路基綱画像(古川町 蒲茂雄氏所蔵) 1点

### ◎ 資料紹介

・木造大日如来坐像複製(H 495×W 355×D 299mm)本像は、NHKテレビ連続劇「草燃える」の主人公である北条政子とゆかりのある日竜峰寺多宝塔(重文)内に安置されている。如来像は解脱の境地に入った特徴として、極めて簡素な納衣をまとっているのが常である。しかし大日如来は、あらゆる如来を統一する根源のほとけと称せられている故か、この像のように宝冠や瓔珞などをきらびやかにまとって王者の風格を示している。小像ながら伏目がちの慈顔には、山岳密教の奥山寺院にふさわしく、不思議な静けさがただよっている。彫りが深く流れるような法衣などには、塔の創建時と同じ鎌倉期の特徴であるリアリズムがよく表現されている。

当館では、如来・菩薩・明王・天部という各種類の仏像の複製を制作してきたが、如来像では特殊な形状をしている大日如来である本像を製作することによって、仏像資料を充実して多彩な展示をするようにしたい。



(木造大日如来坐像)

## 4 教育普及活動

普及活動も3年目に入り、その活動も地味ではあるが一步一步前進し、県下各地の様々な機関とのつながりも深まってきた。今年度は初めての試みとして、「自然観察会」「体験学習会」を実施した。年度当初、「催物案内」を発行し、博物館活動を事前にPRすることに努めた。また校長会、社会教育主事担当者会議等、各種会合に館長以下、積極的に出席し、博物館に対する認識の拡大に力を入れた。

### (1) 展示案内活動

団体等との事前打合せを積極的にすすめ、博物館見学・学習のための便宜をはかり、オリエンテーション、映画上映、学芸員による重点説明などを取入れたプランを作成し、効果を高める努力をした。

### (2) 教育活動

後述の「自然観察会」「体験学習会」を実施した。いずれも小・中学生を対象にしたものであったが、親子ともども、そここに、ほほえましい光景がみられ、初めての試みとしては、予想以上の成果であった。また映画会も年4回を定期化し、春、夏、秋の特別展開催中及び冬の資料紹介の際に、それぞれに関係の深い映画を上映し、会場展示とともに深い内容理解を得る一助とした。今後、この種の催しをできるだけ多く開催し、学習を深める努力をしていきたい。

### (3) 普及活動

懸案であった一般管理業務報告である「館報」に調査研究報告を付した「岐阜県博物館報」第1号を発刊した。館の動きや資料の紹介などのPR紙「博物館だより」も年3回に増やし、「博物館ニュース」、「ここをじっくり」などを年数回発行した。また英文の小冊子“Brief Guide to Gifu Prefectural Museum”を作成した。

これらのほか、県の広報紙「くらしと県政」を活用し、「濃飛の自然シリーズ」を12回連載した。また地元報道機関の協力を得て、特別展・行事等の紹介なども行ったが、いずれも博物館活動に対する県民の理解を得るため、今後力を入れていきたい。

## ● 自然観察会

わたしたちの住んでいる街や山村をはじめ、野原や池や川には、いろいろな昆虫がいて、しかもそれぞれ、いろいろなくらしかたをしている。

特別展「世界のコガネムシ」の開催中でもあったので、同じ昆虫のなかまであって、しかも、いたるところで見かける身近なアリを観察材料として取り上げた。

そして、その生活や、からだのつくりを観察して、昆虫の世界への関心を、ひいては、これをきっかけに自然界への興味と関心をも一層高められることを期待して実施した。

会場は、当館の研修室を中心にして、博物館の野外施設である「自然観察のこみち」をそれにあてた。

なお、参加対象者を小中学生とし、予約申し込み40人の参加を得て、当館職員がこの指導にあたった。実質的には、引率の父兄も同時参加のかたちとなり、共に真剣に観察し、いつも見なれたアリをとおして、そこに不思議な世界のあることを体験し、多くの成果を得させることができた。

ここで、この自然観察会の内容と日程について、その概略を述べる。

- ① 10時に当館研修室に集合、あいさつ、一日の日程及びこの会のねらいを説明し、学習意欲の高揚を図った。
- ② アリの種類、アリの家族とその一生、アリの巣、エサ、活動時間など、O・H・Pやスライド映写機を利用して説明した。
- ③ 続いて、アリの採集法の説明と採集器具



(自然観察会アリを採集する子どもたち)

(吸虫管)を作製した。

吸虫管は、参加者の各自が部品を組み立てて作製し、野外での採集に備えた。

- ④ 博物館のまわりにある「自然観察のこみち」に出て、アリの生態を観察しつつ、自作の吸虫管を使ってア리를各自が捕虫した。
- ⑤ 午後から各自が採集したア리를材料にして、アリのからだの作りをルーペや実体顕微鏡で観察した。
- ⑥ 次に、各自が採集したアリのなかまわけ及び種名までも参加者用に配布した資料プリントをもとに判別した。
- ⑦ 終りに、世界のコガネムシの特展会場でアリとコガネムシのからだのつくりの比較、昆虫一般のからだのつくり及び生態を学習した。

最後に、参加した児童・生徒それに父兄も、自分の手で採集したアリと自作の吸虫管を手を、これを機会にアリについて、更に深くしらべることほもちろんのこと、これからは、常日頃から自然の中に自分がとけ込み考えることを約束して会を閉じた。

## ● 体験学習会

現代生活においては、道具はたいいていオートメーションにより大量生産されたもので、我々は自分で製作することなく、既製品を買い与えるだけであり、一方子供もそれで満足し、自らナイフ・糊などを駆使して作ることをしない。これでは子供の創造性などをはぐくむことはできない。こうした反省からも体験学習会を企画した。

「モノをつくる」ということがどのような意味をもつのか……一見簡単に見える仕事も実際にやってみると案外むずかしい。それゆえ自分で苦労して作ったものは愛着がわき、粗末な扱いはしない。また原材料であるワラ・土・竹などの性質を知り、祖先の知恵を学びとる。要するに祖先の生活の一端にふれ、モノ自体の認識を深めていくことができる。

このような趣旨にもとずき当館では今年度はじめて体験学習会を実施した。他館では体験学習といっても実際は館内での技術公開で、技術



(体験学習会でワラぞうりを作る子どもたち)

保持者に実演してもらい、それを見学する形式をとっているところもあるようだが、当館ではあくまで、はじめから終わりまで完全に製作するという姿勢をとった。ぞうりつくりをテーマに、小中生(父兄同伴もいた)を対象とし、関市在住の池村兼武、池村定一両氏が講師として指導にあたった。また製作の手引書を作成し、理解の参考にした。

以下この事業の概要をのべてみたい。

作業はワラすぐり・ワラ打ちからはじめて、縄ない(左ない・右ない)・ぞうり編みと一連の工程を参加者全員に行ってもらった。ワラを見たことがない、まして縄ないなどしたこともない子供が中心であったので、一部にはもてあまし気味の子供も見うけられた。また時間も4時間を予定していたところ、結局6時間となり、2時間オーバーしてしまった。講師は参加者総勢37人に対して2人であったので、十分な指導はできなかった。しかしワラの準備、ワラ打ちからはじめて一応片足を曲がりなりに完成させることができた。参加者はワラの性質やぞうりつくりの工程をある程度把握したと思うが、それにもまして「モノをつくる」ときの苦労、そして完成したときの喜びを一人一人がしみめたにちがいない。これが最大の収穫であったと思う。親子が共同で一つの仕事に打ち込み、子供ができないむずかしい部分は、親が積極的に講師から指導を受け、それを子供に教える、親子の心のふれあいも多分にあったようだ。

この経験をふまえて今後でもできるだけ、内容のある体験学習会を企画してゆきたい。